

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]  
作成日 平成21年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4076200205		
法人名	社会福祉法人 正松会		
事業所名	グループホーム椿の里		
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市椿623-20 (電話) 0948-28-3839		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺野町4-6 北九州ビル 8F		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(平成21年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 6,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 91.2 歳	最低	85 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	廣畑クリニック・田中医院・アイ歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地を有効に活用された木造平屋造りのグループホーム椿の里は、緑あふれる田畑に囲まれた、自然豊かな環境の中に位置する。中庭を挟み同法人の福祉施設があり、大型施設としてのスケールメリットを充分に利用することで、共同行事・レクリエーション・外出等が行なわれている。また、施設の看護師との連携により医療面での相談事も気軽にでき、安心できる暮らしを提供している。長年認知症介護に携わってきた管理者のもと、理論と実践との両面で質の向上を目指し、日々のケアに取り組んでいる歴史あるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では、ホームが立地する周辺環境と入居者の重度化に伴い、地域との連携が課題となっていたが、近隣の保育園や小学生との交流を始め、法人全体として地域の行事に参加したり、法人の行事に地域の方々をお誘いする企画等で改善が図られている。今後は運営推進会議を有効利用し、認知症についての理解を深める勉強会等の企画により、地域との関係を深めたいと思っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価後の改善点や気付き等、早期に解決できるよう、全職員で検討を行った。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	職員は外部評価の意義を理解し、自らのケアの見直しや改善点の早期発見に繋げ、サービスの向上に努めている。また、定期的に行われる運営推進会議の場において外部評価結果を報告し、改善点を地域の方へ知らせることで協力を得、地域との連携を深めるようにしている。市町村との関係においても積極的に情報交換を行いたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	毎月「椿の里だより」を発行し、主な行事報告や案内を行なっている。玄関に意見箱を設置し、家族来訪時には、健康状態や暮らしぶりについて個別に報告し、金銭出納帳の確認も行っている。家族とのコミュニケーションを大切に、気軽に何でも相談できる雰囲気作りを努めている。また、家族同士がゆっくり話が出来るよう年1回懇親会を実施するなど、安心できる暮らしの場の提供が行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	同じ敷地内に、同法人の福祉施設があるため、法人全体として自治会・老人会等との付き合いを行っている。入居者の重度化に伴い、地域の行事に参加する事が困難ではあるが、同法人のサービス利用者や施設入居者の方々と交流はできている。また、近隣の保育園や小学生達が訪問し、七夕の飾りつけなどを一緒に行った。日常的な散歩時に近所の方々や挨拶を交わしたり、会話を楽しむ関係も出来ている。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し全職員で理念について話し合い「明るく、家庭的な温かみのあるグループホーム」「住み慣れたところで、その人らしく穏やかに暮らせるように支援します。」という独自の理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化のために、玄関・リビング・洗面所等、目につきやすいところに掲、職員が意識できるようにしている。		理念はケアの本質であり、理念を理解することが、理念を常に意識した日々のケアにつながると思われる。会議等職員が集まる機会に、話し合いを行い、日々のケアに活かすべき取り組みが必要に思われる。
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ敷地内に同法人の福祉施設があるため、法人全体として自治会・老人会等との付き合いを行っている。入居者の重度化に伴い、地域の行事に参加する事が困難ではあるが、同法人のディサービスの利用者や、法人のバザー等に訪問される地域の方々との交流に努めている。また、日常的な散歩時、近所の方々との挨拶できる関係はある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価後の改善点や気付き等、早期に解決できるように全員で話し合い、検討を行うようにしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業内容などの報告を行い意見交換を行っている。地域の方々の参加が困難なため福祉委員の参加により、地域の情報を得るようにしている。今後は、運営推進会議をさらに充実させ、地域との連携を強めサービスの向上に繋がりたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	飯塚市の介護相談員の受け入れを毎月行っている。運営や入居者に関する相談事は、法人本部に任せていたが、今後は市の担当者との連携を深めるためにも、積極的に問題点など情報交換を行いたいと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用した実績はあり、管理者は理解しているが、全職員が理解するにはいたっていない。グループホーム協議会に加入しており、研修会等学ぶ機会があるので、全職員が周知できるようにしたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「椿の里だより」を発行し、主な行事報告・行事案内を報告している。また、家族来訪時には、健康状態や暮らしぶりについて報告し、急ぎの場合は、電話連絡により報告している。金銭出納簿の確認も家族来訪時に行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、利用される方はいない。家族来訪時に気軽に職員に要望や意見等を言っていただけるような雰囲気作りに努めている。年1回の懇親会時に家族同士のコミュニケーションの場を設け、意見を運営推進会議にて報告し、運営面に活かせるように取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切に考えており、開設時以来、結婚退職・定年退職以外の離職はない。また法人間の異動もない。職員退職の場合は、引継ぎの期間を充分に取り、入居者に不安やダメージを与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、性別や年齢等で採用対象から排除しないようにしている。資格に関しては、介護福祉士・2級ヘルパー有資格者で、無資格者は採用後取得を条件に採用している。受講の際には勤務体制の配慮が行われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	新人研修・管理者研修・職員会議等で機会ある毎に人権研修・啓発活動に取り組んでいる。特に拘束委員会を作り、人権・倫理・拘束等、内部・外部研修に参加し、後日伝達し全職員に周知徹底するように努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	認知症介護実践者研修・管理者研修・グループホーム協議会等の研修に積極的に参加するようにしている。全職員が研修に参加できるように計画的に支援している。今後、研修が現場で活かせるように研修報告書やマニュアルの整備を行いたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入している。地域のグループホームが参加するブロック勉強会や研修会に参加し交流を図っている。また、グループホーム協議会の実践者発表で、日頃のケアの発表を行うなど積極的な取り組みがなされている。今後他のグループホームとの交換実習も取り入れたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	家族と共に見学される方や、併設のデイサービスからの紹介で入居に繋がる方が殆どである。おやつ時に来訪され、短時間であるが入居者の方々と一緒に過ごし、雰囲気を感じてもらっている。本人・家族が不安なく、納得して入居できるよう時間をかけ、ホームや職員との馴染み関係を築けるよう支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	お茶の時間や入居者がリビングで過ごす時等、地域の昔ながらの伝統行事や料理を教えて貰ったり、思い出話を聞きながら、入居者の意向の把握や理解に努め、共感できる時間を共に過ごしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意向や思いを把握するために、入居者一人ひとりとゆっくり話しをし、何気ない会話や表情から汲み取るようにしている。意思の確認が困難な方は、家族から情報を得るなど生活歴や生育歴から入居者の思いや意向を把握するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は入居者や家族の思いや意向を充分アセスメントし、介護計画に反映できるようにしている。日ごろの関わりを大切に、入居者一人一人がその人らしく暮らせるよう努めている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度、また状況に変化があった場合に、本人・家族・職員・主治医意見書・認定審査会の資料を参考に介護計画を作成している。目標・具体的な支援内容・期間・達成状況・評価が1枚のシートにまとめられ、職員間の共有・更なる改善課題が把握しやすいように工夫されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診介助や同法人のデイサービスとの交流、福祉施設の備品(車椅子・自動車・ゲーム)を利用したレクレーション、外出等の実施、共同行事などスケールメリットを活かした取り組みが行なわれている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医との関係を大切に、受診や通院は家族や本人の希望に応じて対応するようにしている。また、同敷地内の福祉施設に看護師がおり、日常的に相談でき、適切な医療を受けられるようサポートしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化し、常時医療行為が必要となった場合は、同法人の福祉施設に入所されるよう支援している。ターミナルについての方針を重要事項に記述し、説明するようにしている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	研修会に参加している。一人ひとりの誇りを損ねないよう配慮し、トイレ誘導・入浴介助・日常の会話等対応している。記録物は、事務所で管理・保管し個人情報保護に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人ひとりの要望や状況に応じて個別に対応している。重度化により散歩を好まれる方が少なくなったが、天気の良い日は、出来るだけ誘うようにしている。また、食材の買い物にご一緒される方もいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者一人ひとりの能力に応じ、台拭きや茶碗拭き・野菜の下ごしらえ・盛り付け等を一緒にしてもらっている。最近、つくしの袴取りや、もやしの根きりを共に行った。献立は入居者の好みを把握し、全職員で立て、入居者と共に食卓を囲むようにしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	職員2人体制で入浴される方は、週3回入浴してもらっているが、その他の方は毎日入浴できる。入浴時間は、在宅での習慣により近づけるため、3時30分から開始するようにしている。入浴順番も希望に応じるようにしている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や能力に応じて、その日その日できることを楽しんでもらっている。洗濯たたみ・料理の盛り付け・茶碗拭き・雑巾縫い・パズル等を中心に、コーヒー好きな方と近所の喫茶店に行ったり、買い物へ行くなど特別な事ではなく、日々の暮らしの中で喜びや楽しみを感じてもらっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出時、車椅子を利用される入居者が多くなり、外出を好まない方もいるが、天気の良い日は出来るだけ戸外で季節を感じて頂くようにしている。コーヒーが好きな方は、喫茶店へ行くなど個別に対応している。家族の協力で遠方へのドライブ等も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛けないケアを実践している。一人で外出される場合は、職員が付き添うようにしている。玄関先がグループホームと併設施設との共用駐車場となっているので、常に見守り体制がある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回災害発生マニュアルに沿った避難訓練が実施され、運営推進会議を通して地域への協力・呼びかけを行っている。今後は、夜間想定のマニュアルを作成し、訓練を実施したいと考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量を記録に残し管理している。旬の野菜をふんだんに取り入れた献立は、職員が作成し同法人の福祉施設の栄養士にアドバイスを貰うなど栄養面にも充分配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	広く明るいリビングにはテレビやソファが置かれ、リビングから続く和室には掘り炬燵が用意され、入居者が自由にくつろげるようになっている。入居者と共に作った古布の手芸品や、庭先に咲いた季節の花々がホーム内に飾られている。また対面式のキッチンからは、食事作りの音や匂いを感じられ、暖かい家庭的な雰囲気を感じる事が出来る。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	危険なもの以外持ち込み禁止の物は無く、一人ひとり使い慣れた物を持って来られ、仏壇・鏡台・装飾品・家族の写真などその人らしい部屋作りになっている。ベッド・エアコン・クローゼット・トイレが備え付けられたフローリング仕様の居室は、プライバシーに配慮された清潔感溢れた居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			